

新潟県リコーダー教育研究会 会報 H24-2号

平成24年 10月13日(土) 発行

さえずり



新潟県リコーダー教育研究会 会長 小池 純夫
(南魚沼市立大崎小学校 教頭)

祭り囃子が聞こえる

副会長 前田 英也



以前、こんな題名のテレビドラマがありましたね。
いつも楽しんでいる縦笛は少し横に置いて、今回は横笛のお話を・・・。

祭りに笛は付きものです。

8月の14・15日。世間では先祖をお迎える盂蘭盆会(うらぼんえ)で賑わうこの時期に、私が住んでいる長岡市越路の飯塚・中島地区は夏祭りで華やぎます。東京並みにお盆の墓参りは新暦の7月に済ませて、1ヶ月以上も準備をした晴れの祭りが始まります。

この祭りで奏される笛は、小学生から大人まで十数名が、何種類もあるお囃子(しゃぎり)の曲を次々と、心を合わせて吹き込んでいきます。土地の神様の依り代である立派な屋台の後ろから、大太鼓と小太鼓、そして大勢の横笛が、滑稽味のある曲、屋台の引き手を鼓舞する曲、時には哀愁を帯びた静かな曲をかわるがわる響かせながら、町内を隈無く回ります。実り始めた稲穂の上を、しゃぎりの音が流れていく光景は、実に穏やかです。

9月の7・8日。この日は、私が生まれた旧豊栄市(現 新潟市北区)は葛塚地区の秋祭りです。この祭りは「喧嘩祭り」とも言われ、消防署では救急車がエンジンをかけてスタンバイし、毎年けが人が出て、以前には死者まであったとか・・・。

ここで吹かれる笛は「神降ろしの笛」で、一本の笛が一丁の大太鼓を従え、各町内から担ぎ出される「灯籠」と呼ばれる大きな担ぎ物を先導して町内を回ります。神が降りる笛ですから、勇壮な喧嘩祭りの真っ只中であっても、だれも笛や太鼓に手出しはなりません。うっかりよそ町内の人の手や足が笛や太鼓に当たろうものなら、その人はみんなからこっぴどく殴られ、その後加害側の町内代表がきっちり詫言を入れに来ることになります。

それだけに、笛の吹き手は尊重され、毎年新品の祭り着物と白足袋と草履が届けられ、食事も笛吹きだけは特別に高級料亭で上げ膳据え膳でした。かく言う私も、以前はその恩恵に浴した一人です。

数名の交代要員がいるものの、この祭りの笛は、原則として一人ずつが単独で吹き上げます。短くて単純なメロディーの繰り返しですが、興に乗ってくるといろいろなアドリブが入り、フレーズが長くなったりテンポが速くなったりと、自由自在で奔放な笛です。

ソロでよし、オーケストラでよし。主役でよし、脇役でよし。東洋でよし、西洋でよし。木でよし、竹でよし、樹脂でもよし。縦でよし、横もまたよし。

小学生の子どもたちに混ざって、笛の魅力に益々魅入られています。



紫雲寺中学校 リコーダー部 紹介

今回は、紫雲寺中学校のリコーダー部をご紹介します。顧問の三浦由希子先生は、前任者の宮澤紀子先生が立派に育てられた生徒さんたちを引き継ぎ、今年度から指導担当になられました。原稿執筆を快くお引き受けくださいました。心から感謝申し上げます。

Q 1 昨年度末の全日本リコーダーコンテストに向けての頑張り、成果、感想を生徒さんの声でお聞かせください。

A 1 <頑張り>

- ・ 部員の中に3年生の在籍がなく、1、2年生だけで頑張ってきた。
- ・ 校内演奏会と全国大会の準備が同時進行だったため、とても忙しかったです。
- ・ 新潟県の代表として、代表になれなかった団体のためにも、しっかり演奏しなければ、という思いが強かったです。

<成果>

- ・ 学年の壁をつくらずに、音楽のことについて言い合えたことが良かったです。
- ・ 当たり前のことを当たり前にする大切さを改めて実感し、自分の役割だけでなく、周りを見て、必要などころには手をさしのべられるようになりました。

<感想>

- ・ とても楽しかったです。
- ・ 緊張と移動の疲れがありました。
- ・ いろいろな人に支えられているということを実感しました。
- ・ 他の団体の演奏を聴くことができ良かったです。これは本当にリコーダーの音色なのかと思うほど音がきれいでした。
- ・ いろいろな団体の曲の出だしを聴くだけで、全国大会のすごさが伝わってきました。

Q 2 活動で大切にしていることは何ですか？

A 2 ・ 個人ノートを持たせ、①学校での練習メニュー、②家での個人練習内容、③家庭学習内容、④感じたこと（学校内外に関わらず）を記入させ、毎日顧問が点検しています。

→ 生徒とコミュニケーションをとることが目的。

- ・ 生徒が自分の役割だけでなく、自分で気づいて行動することが、先輩から受け継がれています。
- ・ 先輩後輩に関係なく、音楽に関することを自由に言い合える雰囲気があります。



<部活動紹介(4月)>

- ・ 先輩が後輩に対して必要なことはきちんと指導し、後輩もしっかり受け止めています。

Q 3 今後は・・・

A 3 ・ どんな音楽にしたいか、一人一人が自分の意見をもつようにさせたいです。
・ イメージをもって、積極的に表現するよう期待しています。
・ みんなでワイワイ言いながら、音楽を作っていきたいと考えています。

Q 4 校内や校外での演奏の機会はありますか。

A 4 ・ 校内では、春の部活動紹介の他に昼休みを利用して、ミニコンサートを年に数回開催。3月には感謝祭という名で、保護者や地域の人にも聴いてもらえる演奏会を独自に実施しています。

- ・ 校外では、地区内の施設（特養老人ホーム、児童館）や県立病院、楽器店でのミニコンサートなどで演奏し、新発田市内の音楽祭にも参加しています。

Q 5 三浦先生は、ライフワークでもアンサンブル活動を楽しまれているそうですね。お話をお聞かせください。

A 5 個人的には、20年以上、同じ仲間とリコーダーアンサンブルの活動を続けています。年に2回程度の演奏発表なので、練習もそれに合わせて年に2回程度なのですが、気づいたらそれだけの年数が経っていました。

普段は部活動で指導する立場ですが、仲間との演奏では純粹に音楽を楽しむことができます。決して上手な演奏ではありませんが、いろいろな曲を気心知れたメンバーと演奏するのは、とても楽しいですし、いい気分転換にもなります。

また、今年度久しぶりに、夏のリコーダー実技研修会(北村コース)に参加させていただき、普段自分が演奏しているものより、ずっとレベルの高い曲に挑戦させていただきました。刺激を受けてすごくやりがいを感じ、久しぶりに心からおもしろいと思いました。

アンサンブルは人と合わせるので、自分勝手には演奏できません。しかし、「自分」というものをもっていないと、よい演奏にはなりません。相手の気持ちを考える、自分の気持ちを伝える、両方があって初めてアンサンブルになるのかなと思います。

これからも心から楽しんで、音楽を奏でていきたいと思います。



<児童館にて(8月)>

■ 編集 ■

生徒さんが立派に育っていますね。音楽指導のみならず、生徒指導も大切にされ、組織として集団を育成、経営されています。指導者のバトンタッチがうまくできています。同じ立場の皆さんのよい手本になると思います。紫雲寺中リコーダー部の益々の活躍をお祈りしています。



先輩の皆さんの横顔

<小原 惇 先生>

Q 1 近況をお知らせください。

A 1 自分の好きな曲、やってみたい曲等をパソコンに打ち込んで、鳴らして喜んでいる。

また、それに合わせて リコーダーアンサンブルを楽しんでいる。

現職時代にやりたくても、時間が無くてやれなかった事が、好きな時に好きだけやれる。そんな幸せを、しみじみ感じている。

Q 2 今はまっていることは何ですか？

A 2 運動不足解消策を考え、先般、市内のあちこちの体育館を覗いてみた。長岡北部体育館では、高齢者の卓球・バレーボール・ミニテニスをやっていた。卓球の仲間に入れてもらい、少し汗をかいて楽しんでみた。続けてやれそうなので、正式に登録しようか迷っているところ。三日坊主の恐れアリ…。

Q 3 リコーダーを吹かれたり、指導されたりしていますか？

A 3 ピアノやエレクトーンの個人教師をやっておられる7人程のグループの方々が、「アンサンブルの研修と楽しみ」ということで、リコーダーのアンサンブルに注目された。依頼を受けて曲を紹介したり、アンサンブルのお手伝いを楽しませてもらったりしている。リコーダーは初心者でも、音楽的な面ではハイレベルで、楽しいアンサンブルを満喫してい

